様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間： 2007～2010 年度
課題番号： 19520601
研究課題名（和文） 近世中央アジア東部における歴史的聖者伝の系統研究

研究課題名（英文） Study on Historical Hagiography Manuscripts of Eastern Part of Central Asia in Early Modern Times

研究代表者
澤田 稔（SAWADA MINORU）
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：20215916

研究代表者の専門分野：中央アジアの歴史
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：中央アジア イスラーム 聖者

１．研究計画の概要
（１）中央アジア東部で 18 世紀後半以降に作成されたムハンマド・サーディク・カーシュガリー著『ホージャガーン伝』諸写本の系統の差異を明確にする。

（２）上記の写本のうち、歴史研究の資料として最良と推測される B 系統の写本群の校訂作業と翻訳作成に従事し、その他の系統の写本との比較をおこなう。

２．研究の進捗状況
（１）『ホージャガーン伝』の推定３系統の写本群のうち、B 系統に属すると考えられる写本の校合作業（アラビア文字テキストのトランスクリプション）をほぼ終えている。ただし、当初 B 系統に属すると判断し底本としていた１写本は、テキストの途中から A 系統の写本のテキストと同じになることが判明した。写本の書写人が最初は B 系統の写本を用い、途中から A 系統の写本に変更して筆写したものと思われる。これは、系統の異なる『ホージャガーン伝』写本の流布状況を考える上で興味深い事例となる。

（２）A 系統の写本についても、その校合作業と翻訳を進めている。この系統の写本のテキストは、B 系統の写本の内容と共通する人物や出来事などについての記述においても、その文章表現が大幅に異なっている箇所が多く見られる。それ故、従来の先行研究で提起されている、著者は１次本（A 系統の写本）を書いたのち、それを短縮して２次本（B 系統の写本）を作成したという仮説が成り立つかどうかは、再検討の余地が多いにあると考えられる。

（３）A 系統と B 系統の写本の差異は文章表現など語句の異同にとどまらない。内容そのものにも相違が見られる。とくに、B 系統の写本になく、A 系統の写本に書かれている内容がある。たとえば、ナクシュバンディー教団の道統や、カシュガル・ホージャ家の血統についての記述を挙げることができる。A 系統の写本に書かれているカシュガル・ホージャ家の血統や、そこに現れるブルハーヌッディーン・クルチュという伝説的な人物について他の聖者伝と対照して、その血統が２種類あったこと、それぞれがフェルガナ地方とカシュガル地方のマザール（聖者廟）崇敬と密接な関連のあったことを 2008 年に国際会議で研究発表した。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）写本の校訂作業が当初のほぼ予定どおりに進行しており、A 系統と B 系統の写本のおおまかな差異が把握できているため。

４．今後の研究の推進方策
A 系統の写本の校合作業を進めるとともに、その内容の宗教的側面の解明に努める。この作業により B 系統との差異がより鮮明になると考えられる。

５． 代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）

（単独）Sawada Minoru, “The Genealogy of Makhdūm-i A‘zam and the Cultural Traditions of Mazārs”, International Workshop, Studies on Mazar Cultures of Silk Road (Xinjiang University, China, August 26, 2008)

〔図書〕（計１件）

（共著）The Toyo Bunko, *Toyo Bunko Research Library 12, Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries*, Edited by James A. Millward, Shinmen Yasushi, Sugawara Jun, 2010,317 pp., Sawada Minoru, “Three Groups of Tadhkira-i khwajagan: Viewed from the Chapter on Khwaja Afaq”(pp. 9-30)